

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	Raptor	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.460	ΔRG	0.060	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：raptor

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

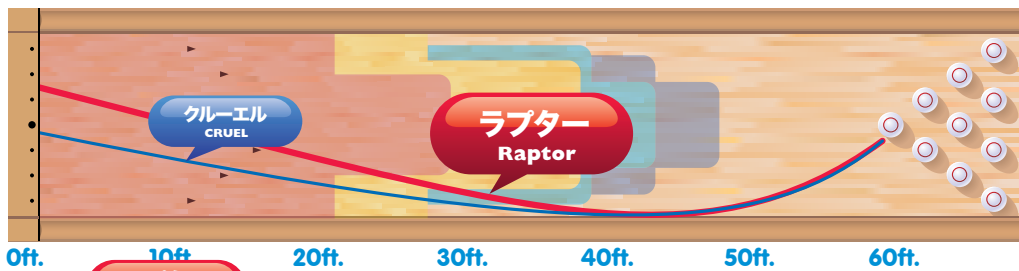
比較対照ボール：CRUEL

フレアーの幅 インチ

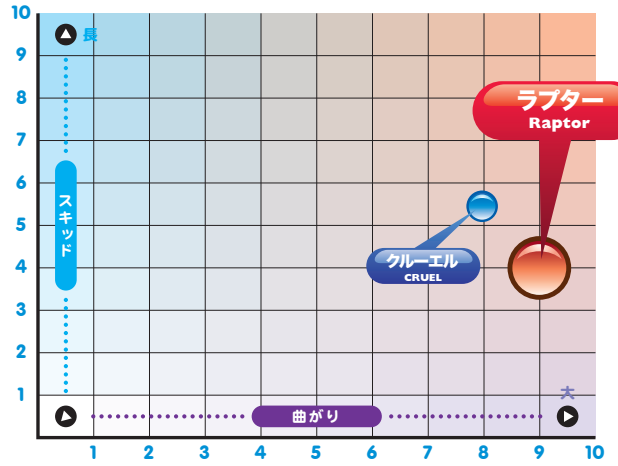
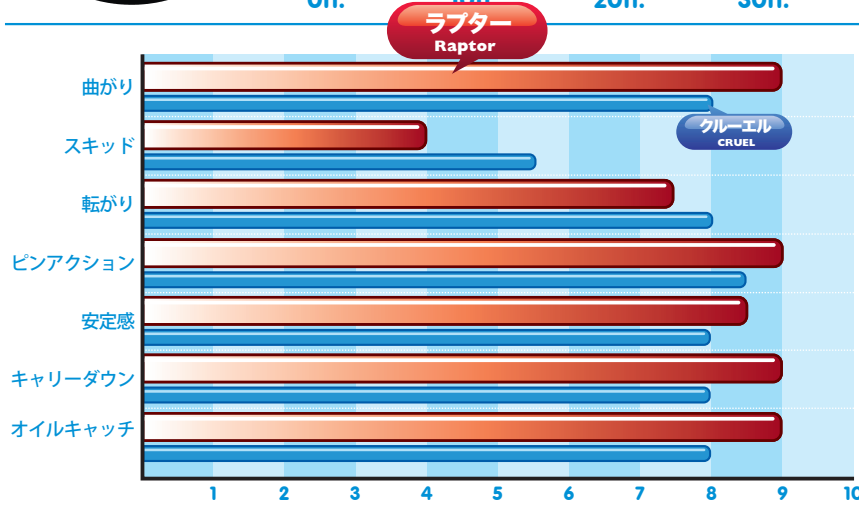
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社最大値のRa値を誇るFormula-7 ReactiveとUSBCリミット限界のΔRG:0.060の組み合わせのraptor。クルーエル及びクルーエルEで使用しているキャッチ力に定評があるFormula-5 Reactiveをさらに強化させるため、Formula リアクティブをベースに導きだしたカバーストックがFormula-7 Reactive。現在MOTIV社の中では最大値を誇るRa値と新開発のPredatorコア。RG:2.46 ΔRG:0.060 Int Diff 0.015(15P参照)で強いカバーストックと強いコアとの組み合わせのraptorのリリースです。

投球して驚いたのは、オイルに対しての強さとキャリアダウンを感じさせない曲がりでした。今回作用されているFormula-7 Reactiveはかなりキャッチ力があり、スキッドも短く感じます。新開発のPredatorコアもねじれ感が強く、その影響かミッドエリアで強いモーションポテンシャルを見出します。スキッドも短く、ミッドエリアで動き出すヘビーオイル対応のボールに仕上がっているため、手前の薄いオイルやショートなコンディションには不向きで、手前のオイルを有効に使うことが必要になるでしょう。

曲がりのイメージはキャッチが強いカバーストックとねじれ感の強いコアとの組み合わせなので、ミッドエリアからのストロングアーク状です。実際にラインを取ってみるとオイルの中でキャッチ力に任せるラインが描けますので、オイルの切れ目まで出すリアクションを暴れさせることも少なく、オイルの中で安定した弧を描くことができました。ピンアクションは低く重厚のある”ピンにからむ”倒れ方をしますので、ピンアクション勝負に持ち込めるボールであるとも言えます。

特記事項

強いカバーと強いコアとの組み合わせですので、C/Aやマスバイアスはやや抑え気味なレイアウト方がメリハリ感を出せるでしょう。ポウラーのタイプにより選択してください。